

VERITAS™

自習 & ハンズオントレーニング資料

Backup Exec 20

BE20-06

重複排除用ストレージの作成

ベリタステクノロジーズ合同会社

テクノロジーセールス & サービス統括本部
セールスエンジニアリング本部

免責事項

- ベリタステクノロジーズ合同会社は、この文書の著作権を留保します。また、記載された内容の無謬性を保証しません。
- VERITAS の製品は将来に渡って仕様を変更する可能性を常に含み、これらは予告なく行われることもあります。
- なお、当ドキュメントの内容は参考資料として、読者の責任において管理/配布されるようお願いいたします。二次利用される場合、弊社はその成果物に対して責任を負いません。

目的

本資料で自習もしくはハンズオントレーニングを受講すると、以下が可能となります。

- Backup Exec のバックアップデータの保存先として、重複排除用ディスクストレージを作成できるようになります。
- 作成時に必要な各種設定項目がわかります。
- 上記により、お客様への製品販売時の作業が実施可能となります。

■ハンズオン環境の場合

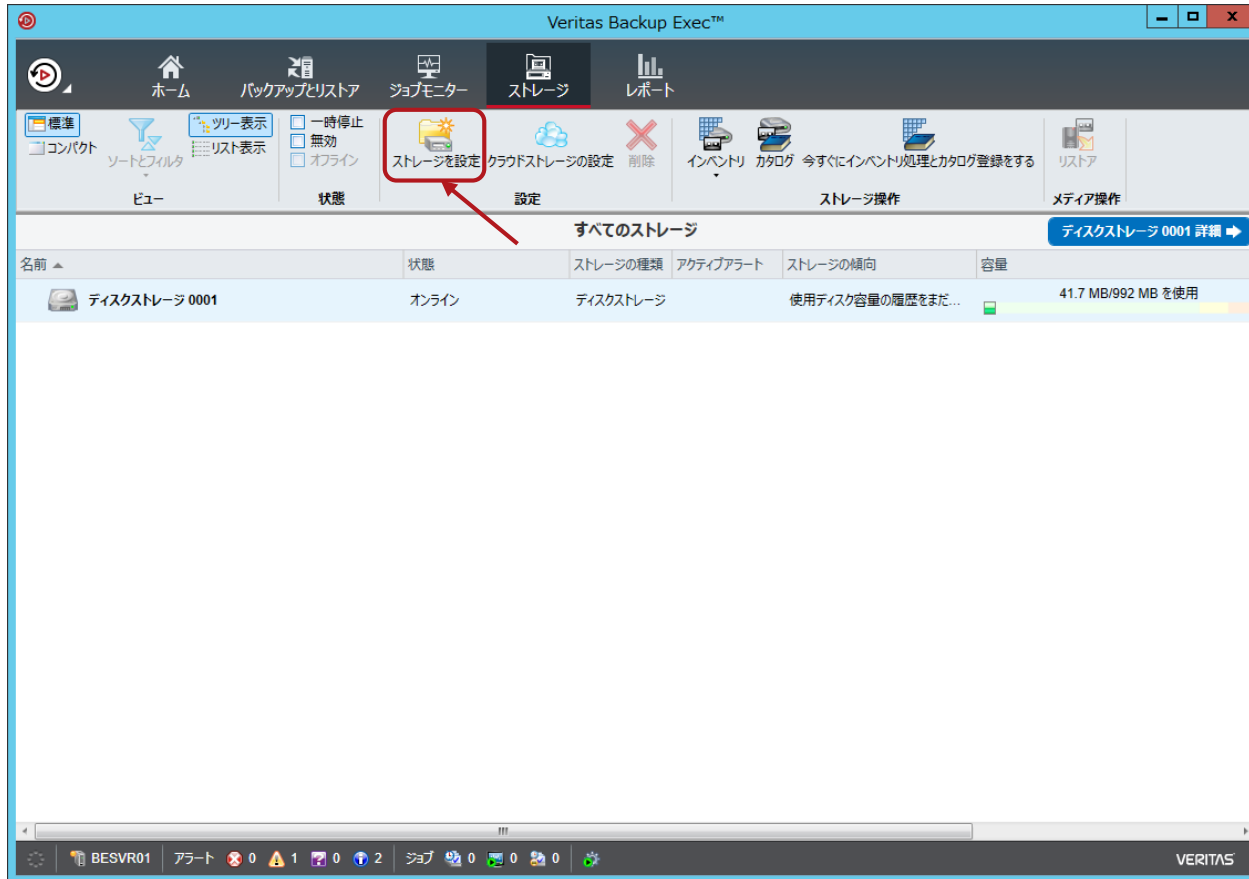
以降は、事前に講師から指示された仮想マシン上で作業を実施します。
以下を確認して作業を進めてください。

- ・仮想マシン名
- ・アカウント
- ・パスワード

■自習の場合

以降は、記述内容を適宜自習環境の情報と読み替えて作業を実施してください。

1/16 設定ウィザードの起動

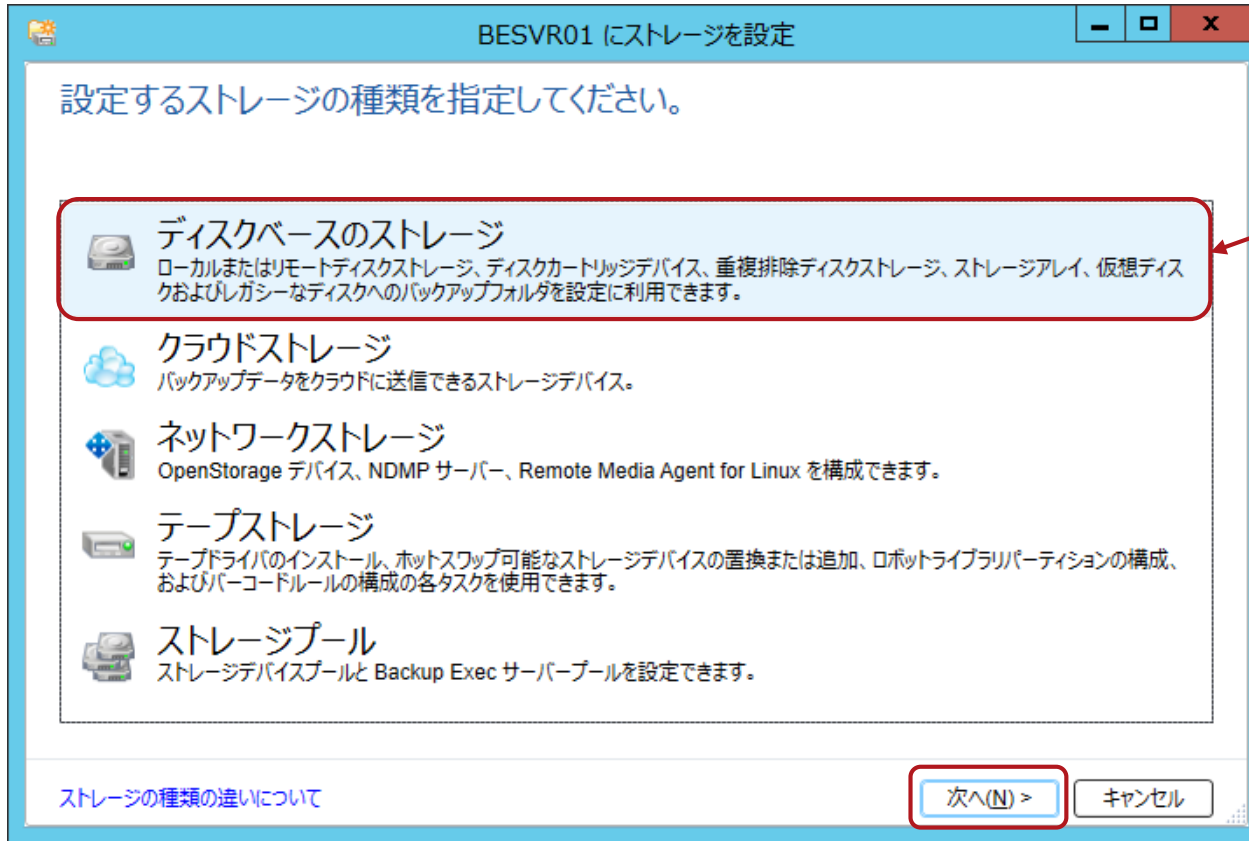


Backup Exec の GUI を起動します。

「ストレージ」のタブに移動します。

「ストレージを設定」をクリックします。

2/16 ストレージの種類を選択

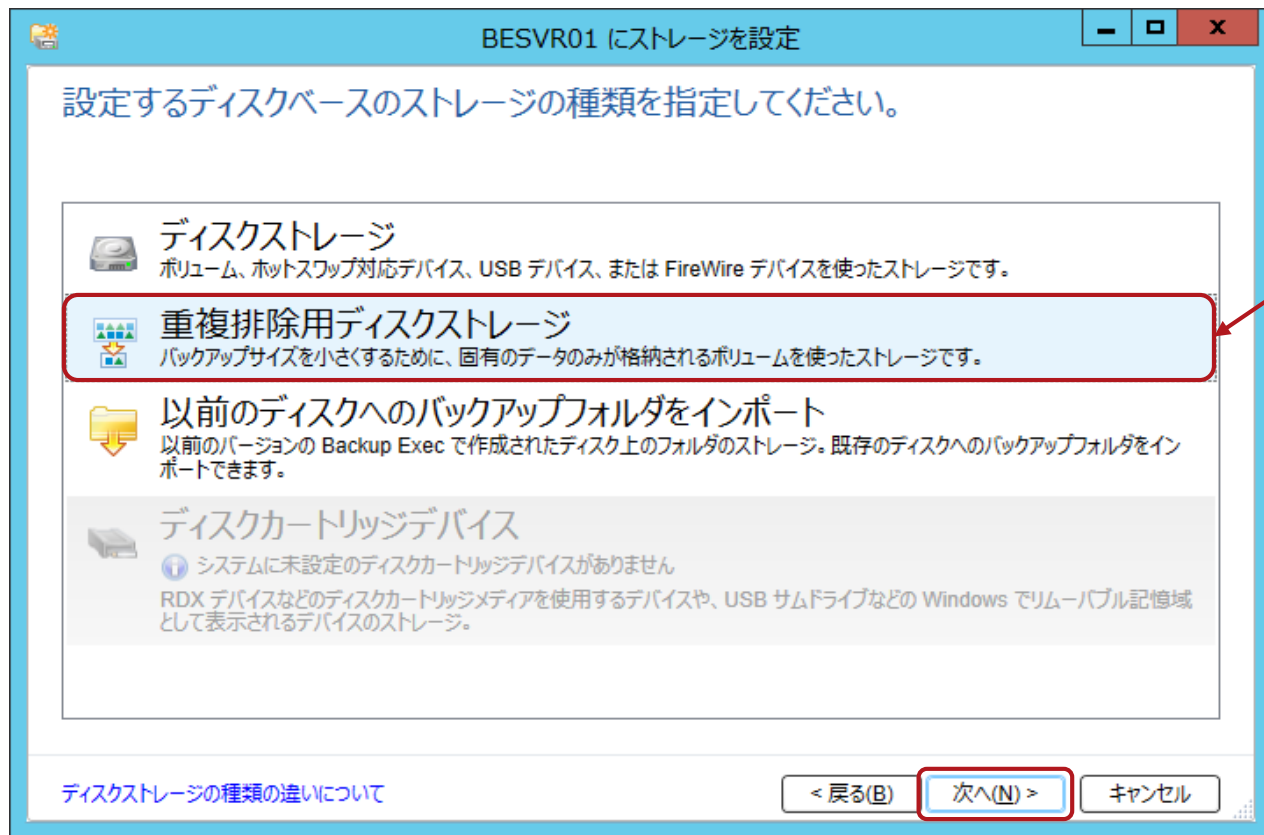


「ストレージを設定」ウィザードが表示されます。

「ディスクベースのストレージ」を選択します。

「次へ」をクリックします。

3/16 ディスクベースのストレージの種類を選択



設定するディスクベースのストレージの種類を指定する画面が表示されます。

「重複排除用ディスクストレージ」を選択します。

「次へ」をクリックします。

4/16 ディスクストレージの名称設定

BESVR01 にストレージを設定

重複排除用ディスクストレージデバイスに使用する名前と説明を指定してください。

名前(M): 重複排除用ディスクストレージ 0001

説明(D):

このコンピュータは、重複排除用ディスクストレージの物理システムメモリの最小必要条件を満たしていません。[次へ]をクリックすると、重複排除用ディスクストレージデバイスの設定を続行できます。ただし、コンピュータが最小必要条件を満たしてから、重複排除用ディスクストレージデバイスを作成することをお勧めします。

重複排除用ディスクストレージは、1TBの重複排除されたデータに対して1.5GBの物理メモリが必要になり、オペレーティングシステムに使用されていない最低8GBの空き物理メモリが必要です。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

重複排除ディスクストレージデバイスに使用する名前と説明を指定する画面が表示されます。

ハンズオンではデフォルトのまま「次へ」をクリックし、先に進みます。

CASO環境上に複数作成する際は、先頭に英数字を設定し、ASCII順に意図した順番に表示できるようにするとわかりやすいです。

※)必要メモリ量の説明も表示されています。

- Backup Exec の重複排除用ストレージは、Backup Execサーバ1台上に1つだけ作成可能。
- CASO環境では、環境内の各Backup Execサーバ上の重複排除用ストレージを共有可能。
- CASO環境の場合、各サーバ毎に識別しやすい名称を設定することが好ましい。
例) 01-MBES01-DedupStorage 、 02-MBES02-DedupStorage

5/16 作成場所の設定

BESVR01 にストレージを設定

重複排除用ディスクストレージデバイスを作成またはインポートしますか？

重複排除用の新しいディスクストレージデバイスを作成する(C): F: (99.8 GB 空き)
1つのボリューム上に作成できる重複排除用ディスクストレージデバイスは1つだけです。

重複排除用の既存のディスクストレージデバイスをインポートする(I):
重複排除用の既存のディスクストレージデバイスのパスを入力します。

すべてのウイルス対策スキャンから重複排除用ディスクストレージデバイスを除外することをお勧めします。ウイルス対策スキャンによって重複排除用ディスクストレージデバイス内のファイルが削除または検疫されると、このデバイスへのアクセスが無効になることがあります。
ストレージの破損を防止するために、ここですべてのウイルス対策スキャンを手動で構成し、F:\BackupExecDeduplicationStorageFolder を除外する必要があります。

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

重複排除ディスクストレージデバイスの場所を指定する画面が表示されます。

バックアップ先のボリュームを選択します。

「次へ」をクリックします。

今回のハンズオンでは、「F: ドライブ」を選択します。

System (C:)	ローカル ディスク
DVD ドライブ (D:) Veritas	CD ドライブ
B2D-vol (E:)	ローカル ディスク
Dedup-vol (F:)	ローカル ディスク

注意事項として表示されているように、アンチウイルスソフトのスキャン対象から除外します。

- ・サポートされる作成先ストレージ
DASのみ(SATA、SAS、SAN、10GbEのiSCSI)
- ・サポートされない作成先ストレージ
NAS、USB接続ストレージ

6/16 アカウントの設定 その3

ログオンクレデンシャルの追加

アカウントクレデンシャル

ユーザー名(U): dedup

パスワード(P):

パスワードの確認入力(C):

アカウント名(A): dedup

注意(N):

所有者専用ログオンアカウント(R)

デフォルトアカウント(E)

ヘルプ(H) OK キャンセル

アカウントを追加します。

今回のハンズオン環境では、
左図のように登録します。

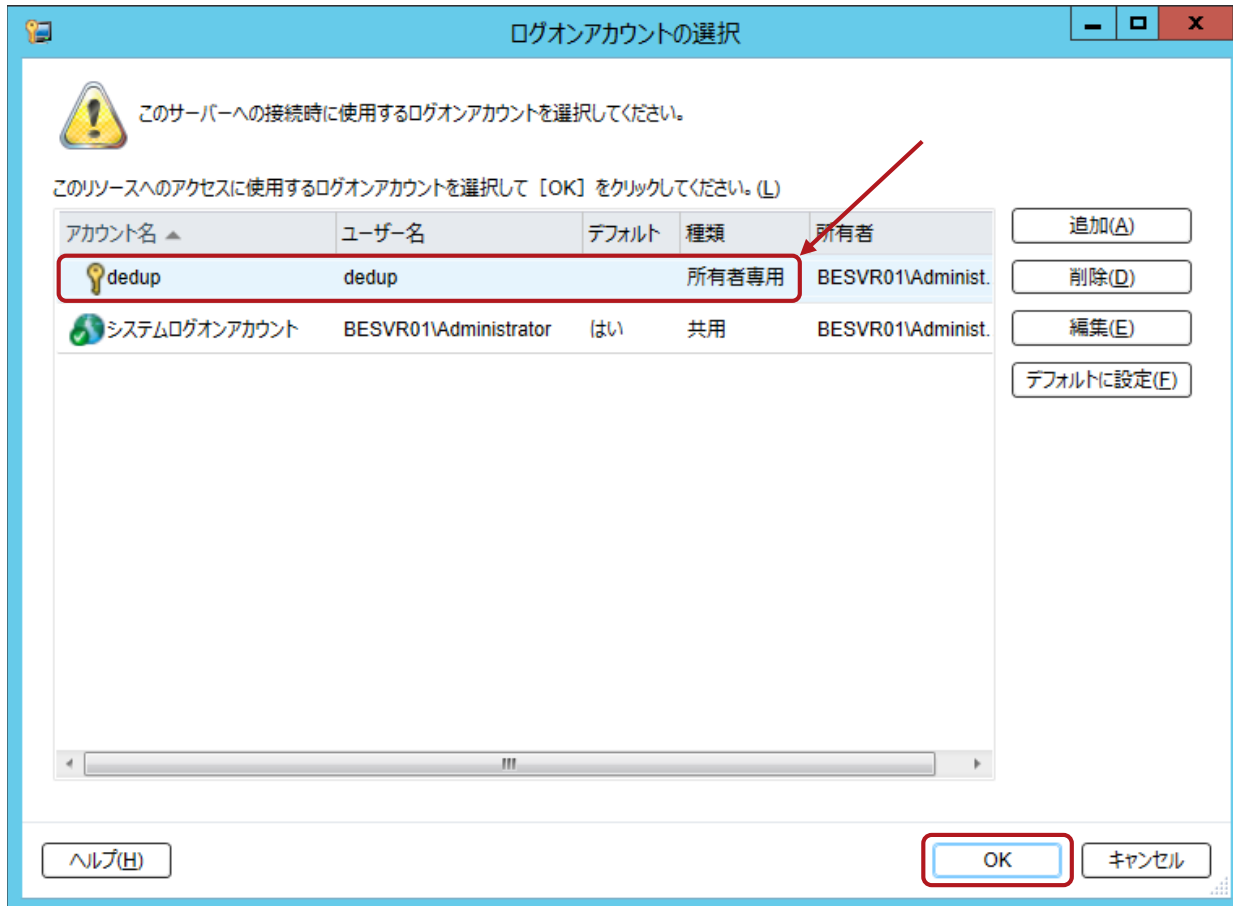
ユーザー名 : dedup

パスワード : Password#

「OK」をクリックします。

このアカウントはOSとは関係ない、Backup Exec 独自のアカウントとなります。

6/16 アカウントの設定 その4



アカウントが追加され、選択されていることを確認します。

今回のハンズオン環境では、左図のように登録した「dedup」が選択されています。

「OK」をクリックします。

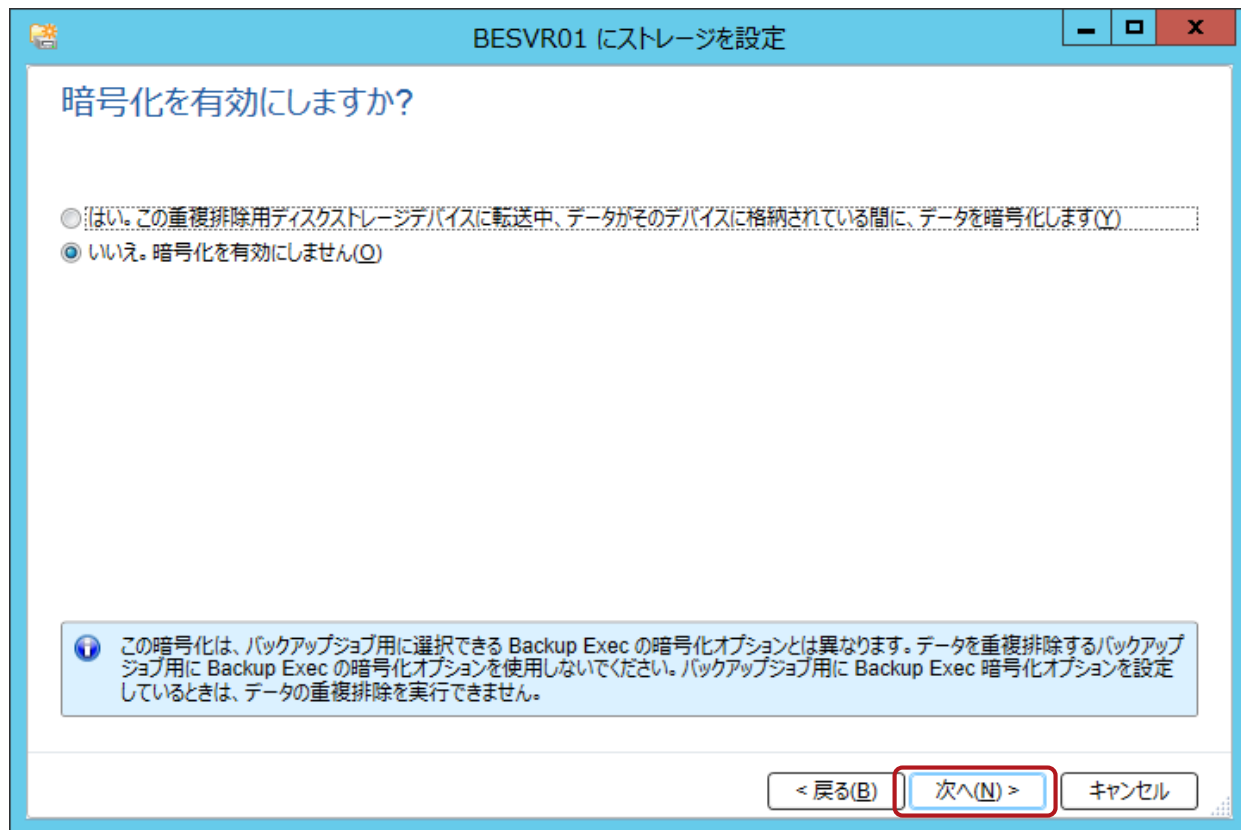
6/16 アカウントの設定 その5

元のウィザードの画面でも、追加したアカウントが選択されていることを確認します。

今回のハンズオン環境では、左図のように登録した「dedup」が選択されています。

「次へ」をクリックします。

7/16 暗号化の設定



重複排除ディスクストレージデバイスに対する暗号化の設定をする画面が表示されます。

今回のハンズオンでは、デフォルト値のままです。

「次へ」を進めます。

なお、重複排除ストレージでの暗号化は、このあと、ストレージのプロパティ画面でも設定変更可能です。

※)暗号化済データは重複排除効率が大幅に低下するため、重複排除後に暗号化する必要があります、そのため重複排除ストレージ側での設定となります。

8/16 同時並行処理数の設定

BESVR01 にストレージを設定

この重複排除用ディスクストレージデバイス上での同時実行を許可する同時並行処理の数を指定してください。

同時並行処理(C):

この設定は、このデバイスで同時に実行できるジョブの数を決めます。このデバイスが処理できるジョブの数は、ハードウェアと環境に応じて異なるため、この設定を後で調整することが必要になる場合があります。システムの過負荷を避けるためにできるだけ低く設定することをお勧めしますが、ジョブを同時に処理できる値にする必要があります。

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

重複排除ディスクストレージデバイスに対する同時並行処理数を指定する画面が表示されます。

同時に実行可能なジョブ数を設定します。

「次へ」をクリックして進めます。

今回のハンズオンでは、デフォルト値のまま、進めます。

同時並行処理数は、以下の点に注意して決定します。
大きすぎる値は、パフォーマンスの低下につながります。

- ・ストレージデバイス側のディスクI/O能力、CPU能力
- ・バックアップ対象サーバ側のデータ送信能力
(ディスクI/O、CPU負荷、ネットワーク)

9/16 設定概要の確認

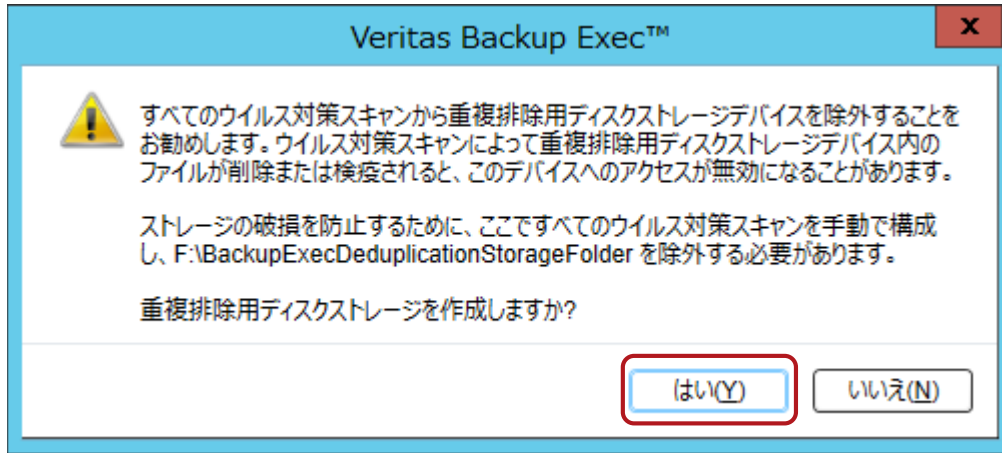


重複排除ストレージ設定の概略が表示されます。

内容を確認します。

「完了」をクリックします。

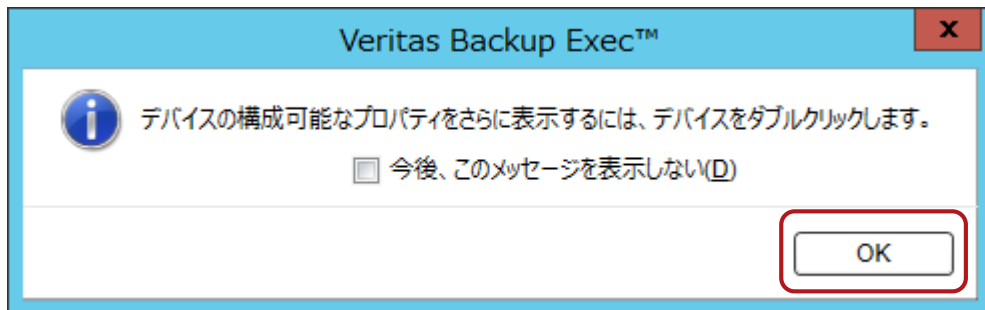
10/16 注意事項の表示 その1



ウイルススキャンに関する注意事項が表示されます。

内容を確認の上、「はい」をクリックします。

11/16 デバイス作成後のメッセージ



デバイスのプロパティに関する注意事項が表示されます。

内容を確認の上、「OK」をクリックします。

12/16 サービスの再起動要求

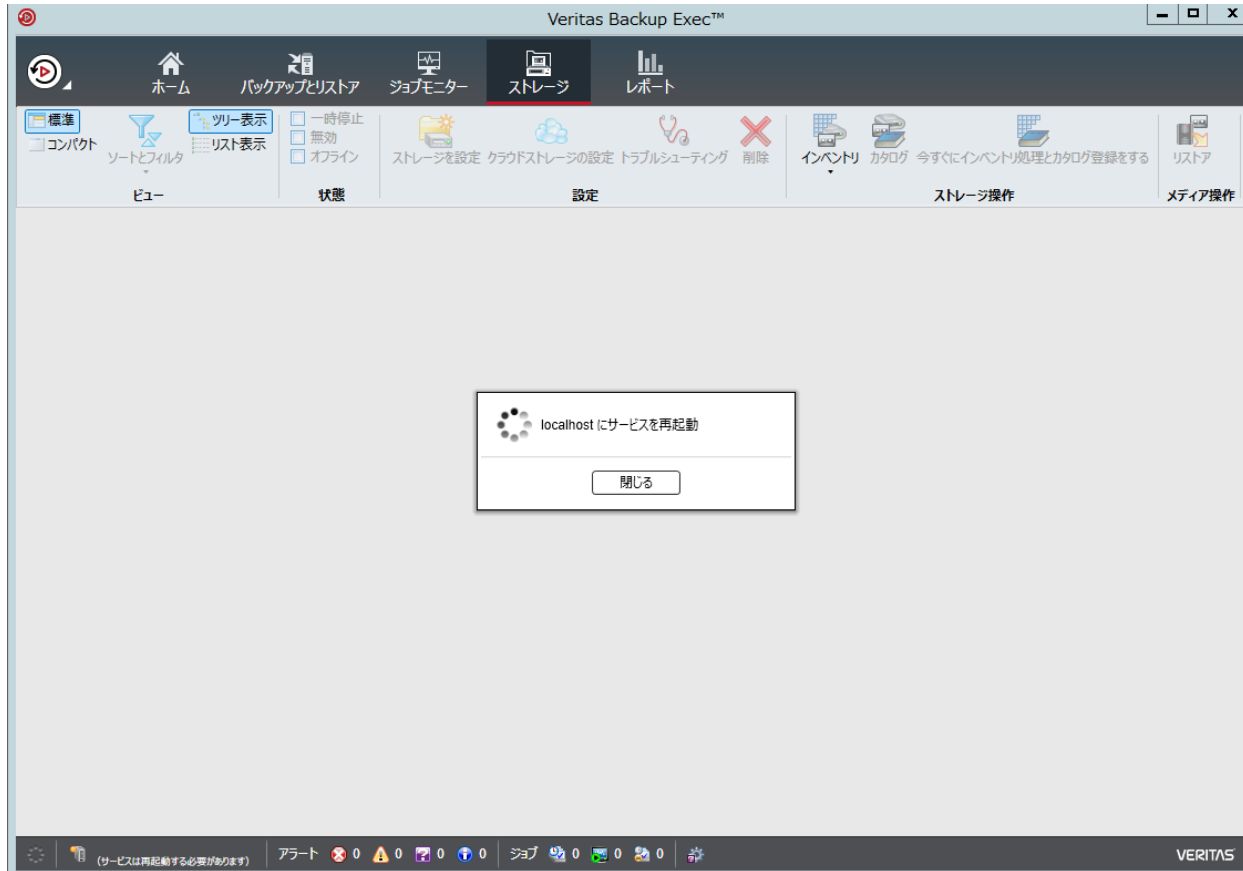


サービス再起動の要求が表示されます。

内容を確認の上、「はい」をクリックして再起動します。

重複排除ストレージは、特殊なデバイスとなるため、認識のために Backup Exec のサービスの再起動が必要となります。

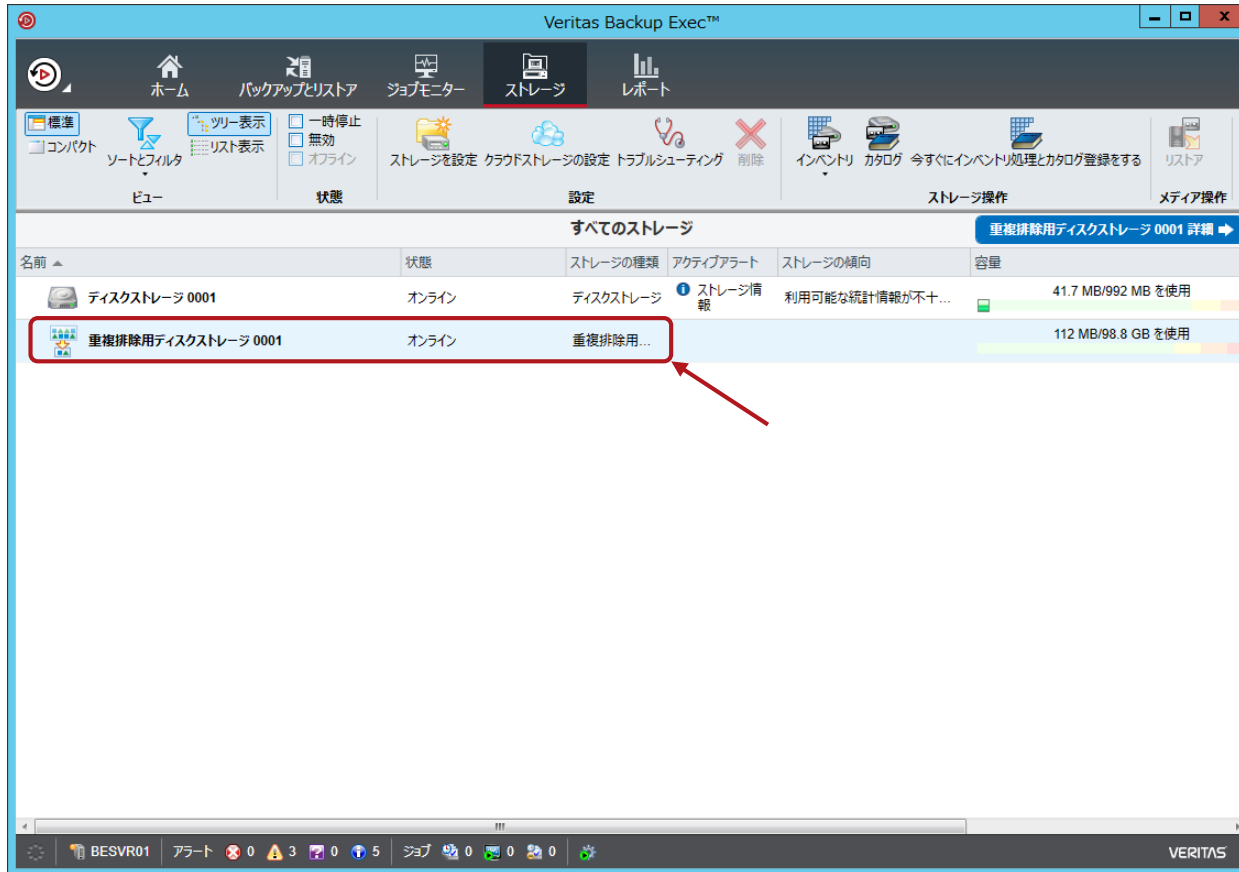
13/16 サービスの再起動



サービス再起動が実行されます。

そのまま、待ちます。

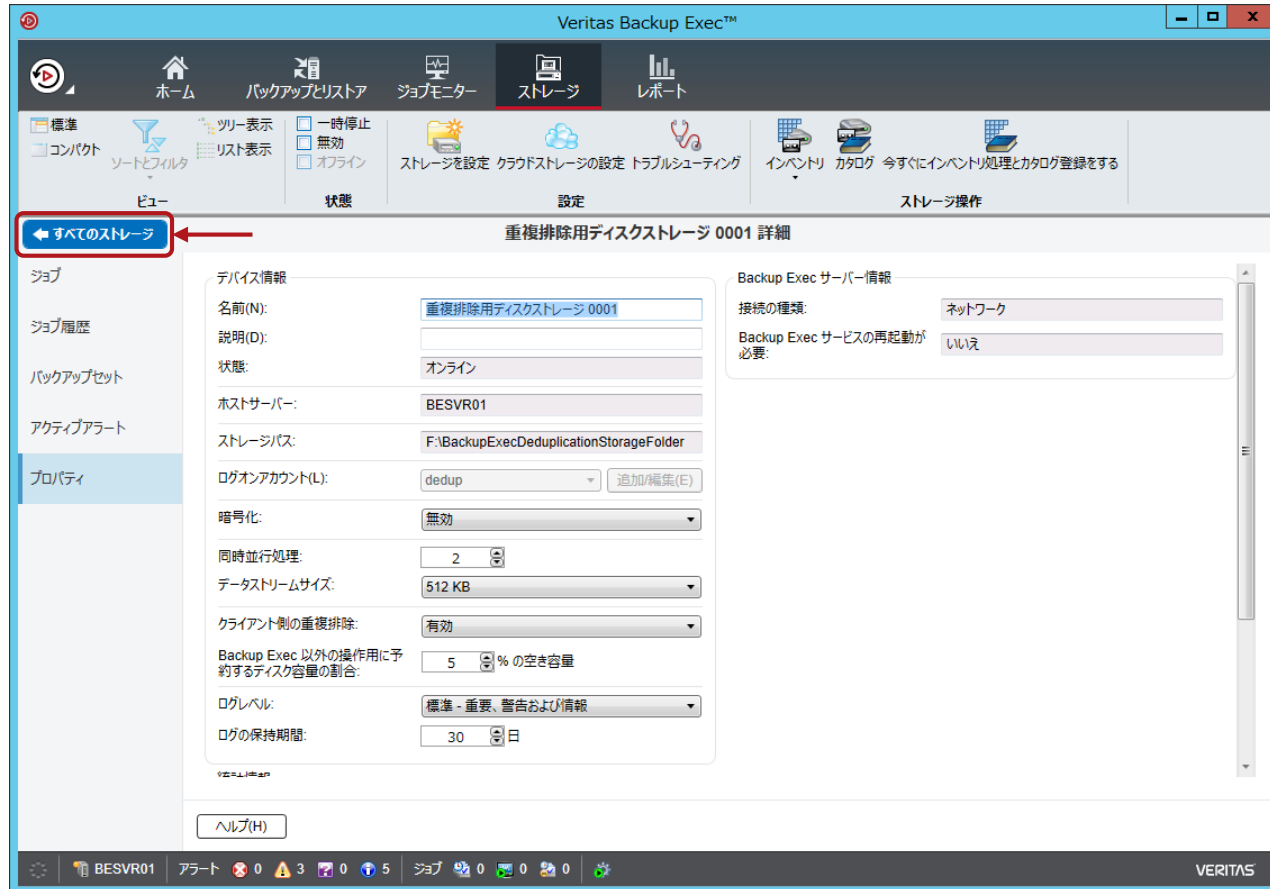
14/16 作成されたデバイスの確認



ストレージタブに「重複排除ディスクストレージ0001」が作成されていることを確認します。

表示されている該当ストレージの名前をダブルクリックします。

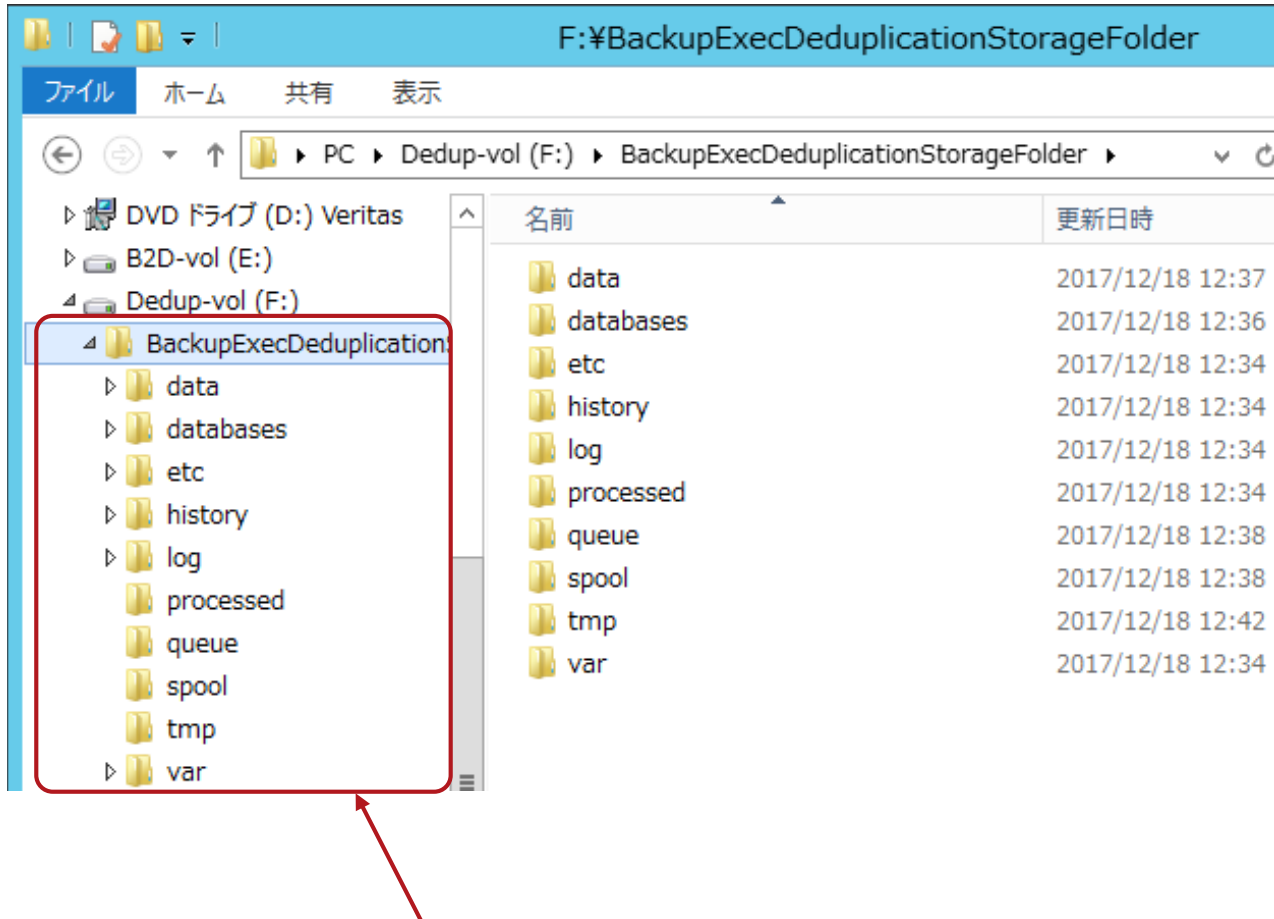
15/16 重複排除ストレージのプロパティ その1



作成された重複排除ディスクストレージの詳細情報は、詳細画面内の「プロパティ」で確認できます。

「すべてのストレージ」をクリックして、元の画面に戻ります。

16/16 重複排除ディスクストレージの実体



重複排除ディスクストレージを作成したディスクを、エクスプローラーで表示します。

ハンズオンでは、F:ドライブを確認します。

重複排除ストレージの場合、複数のフォルダから構成されています。

弊社サポートからの指示が無い限り、これらのフォルダ内のファイルは直接操作しないでください。

※)公開されている技術情報 (Technoteなど)による操作は除く



Thank you!

ベリタステクノロジーズ合同会社
テクノロジーセールス&サービス統括本部
セールスエンジニアリング本部

Copyright © 2015 Veritas Technologies LLC. All rights reserved. Veritas and the Veritas Logo are trademarks or registered trademarks of Veritas Technologies LLC or its affiliates in the U.S. and other countries. Other names may be trademarks of their respective owners.

This document is provided for informational purposes only and is not intended as advertising. All warranties relating to the information in this document, either express or implied, are disclaimed to the maximum extent allowed by law. The information in this document is subject to change without notice.

2018年1月版 V1.0

**掲載されている各種情報は2018年1月現在のものです。これらは予告なく変更される場合があります。
最新情報はWEB,各種お問い合わせ窓口、販売店様での確認をお願いします。**